

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577600244		
法人名	社会福祉法人正清会		
事業所名	グループホーム白松苑		
所在地	山口県山口市阿知須4900番地4		
自己評価作成日	平成25年11月25日	評価結果市町受理日	平成26年5月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三食を、入居者と、職員で、手作りをしている。その人その人で出来る作業を分担して行っている。四季を感じるおはぎや、柏餅なども、手作りをしている。個人の趣味である、短歌、ぬりえ、脳トレ、カラオケも楽しんでいる。誕生日には、ご自分の食べたいものや、買い物、外食にも出掛けられている。食材なども買いに出掛けられている。本人希望により自宅周辺にもドライブに行っている。食器洗いは、毎日されている。運営推進会議のメンバーの方の協力もあり、ソーメン流しを行ったり、柏餅の葉を取りに行っている。地域の方よりお花を頂くこともあり、交流が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の文化祭に利用者の作品を展示するコーナーを設けて参加されたり、商店街のひなもん祭や幼稚園児の発表会、小学生の金管バンド演奏、中学校の運動会などの見学、中学生の職場体験の受入れ、フルートやサクソの演奏、踊り、コーラスなどのボランティアの来訪、地域の人の協力を得て行う餅つきやしめ縄づくりなど、地域とのふれあいを大切にして支援に取り組んでおられます。利用者の好みを聞いて献立をたてられ、事業所で収穫した野菜などを使って三食とも事業所で食事づくりをしておられます。利用者はおせち料理やそうめん流し、戸外でのサンマ焼き会、柏餅づくりや干し柿づくりなど季節ごとの食事を楽しんでおられます。ホテル観賞や温泉入浴、外食など、家族や地域の人の協力を得て戸外に出かけられるよう取り組んでおられ、利用者の暮らしが楽しいものとなるよう支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方とふれあいをもつ、を理念に掲げて地域活動に参加する事を全職員が共有し、実践している。地区の夏祭り・文化祭・十日市に参加	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を事業所内に掲示し、ユニット会議で話し合い共有している。職員は家族や地域の人と声をかけあう関係づくりをしてケアに取り組んでいるなど、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が、畑に咲いている四季の花を持って来て下さる。また、沖の原いきいきサロンの方との交流会がある。ボランティア(フルート、歌、ソーメン流し、しめ縄作り)の来訪がある。	運営者が自治会総会に出席し、職員が地区の清掃に参加している。利用者の作品を展示する地域の文化祭や雛もん祭りに利用者と職員が共に参加している他、中学校の運動会や幼稚園児の発表会、小学生の金管バンドの演奏を見学したり、中学生の職場体験を受け入れている。ボランティア(フルートやサクスの演奏、踊り、コーラス、餅つき、しめ縄づくりなど)の来訪があり、地域の方が法人の夏祭りに参加して交流している。散歩や買い物の時に声をかけ合ったり、花の差し入れがあるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症出張講座の依頼にて、機会があれば、行って行く。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ユニット会議を開き、評価の意義について理解し、全項目については、色々な意見もあり、意識統一を図る事も出来た。消防による救命講習を受けている。看護師による初期対応の方法と、酸素吸入の使用方法など、講習会を行った。	管理者が評価の意義を説明し、全職員が自己評価のための書類に記入して会議で話し合っまとめている。利用者の散歩の機会を増やすなど、個別ケアへの職員の意識の向上につながっているが、目標達成計画など、前回の評価結果を活かした取り組みが十分とはいえない。	・評価を活かした改善への取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告や、防災訓練の報告も行き、外部評価の結果報告もしている。地域交流が、大変良く出来ていると、委員会で報告している。委員会は、2ヶ月に1回開催している。賞観賞・菖蒲見学・片倉地藏参り・温泉・外食にと、委員さんが参加されている。	2ヶ月に1回開催し、活動報告や行事報告、外部評価の報告をして、防災や感染症などについて意見交換しているが、意見を活かしているとは言えない。事業所の行事に運営推進会議メンバーの協力を得ている。	・運営推進会議での意見を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括担当者は、2ヶ月に1回運営推進会議に参加していただき、活動報告をして意見をもらっている。	市担当課とは電話で相談して助言を受けたり、情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは運営推進会議時や電話で相談や情報交換をしており、依頼を受けて認知症出張講座に出向くなど連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを、全職員で話し合い、法人内での身体拘束について、勉強会に参加して、正しく理解し取り組んでいるが、防犯面から、矛盾を感じている。日中は、玄関に鍵はかけずに、外出を察知したら、一緒に出掛けている。	法人の研修で学び、ミーティングで話し合っ、身体拘束をしないケアについて全職員が理解している。スピーチロックなど気になる場所があれば管理者が指導している。玄関の施錠はせず、外出したい人とは一緒に散歩するなど工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での、虐待防止に関する研修会に参加し、防止に努めている。日々の業務の中で、注意を払い虐待防止に努めている。スタッフ同士で、声を掛け合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在ないが、必要性があれば、学ぶ機会を持ちたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・退去時に説明し、納得を頂いている。利用料金改定等、変更があれば、個人、個人に説明し、理解・納得を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡をした時に、要望や意見をお聞きしている。要望など出れば、運営推進会議で、外部者に表せる機会を設け、運営の反映に努める。運営推進会議において、苦情解決委員の方が、「苦情の受け入れをしています。」と、伝えられている。意見箱も設置し、記入の声掛けをしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員を定め、契約時に家族に説明し事業所内に掲示して周知している。面会時や運営推進会議時、電話等で意見や要望を聞いている。事業所だよりも、意見記入欄を設けている他、意見箱を設置している。運営に反映させる意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員の面接があり、適宜意見を話し合う機会があり、運営に反映させている。	管理者は年9回のユニット会議や朝夕の申し送り時に職員の意見や提案を聞いている他、日頃から意見を言いやすい雰囲気づくりをしている。運営者は年1回個人面談を行い意見を聞いている。利用者に合わせた時間に夕食を提供できるよう遅番の勤務体制を設けるなど、職員の意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度があり、職員が向上心を持って働けるよう、職能評価を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加している。研修復命を行い、他の職員にも共有出来ている。法人内の研修も参加し、ユニット会議でも話し合いを行っている。	外部研修は情報を提供し、段階に合わせて勤務の一環として参加する機会がある。参加後はユニット会議で復命して職員間で共有している。法人研修は月1回、委員会活動を中心にテーマを設けて計画的に実施している。内部研修はノロウイルス、インフルエンザについてなど年2回実施しているが、受講記録が未整備で内容も十分とはいえない。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前施設や家族から、情報を頂き、本人が早く安心して生活が出来るよう、対話に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族と連携を密にし、要望等をお聞きしながら、信頼関係に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、本人・家族のその時必要なサービスの対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人から昔の事など、教えていただく事も多く、昔の知恵を今の生活に活かし、共に生活する立場を築くよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とコミュニケーションをとり、行事にも一緒に参加され共に本人を支えて行く関係を築いている。毎月、家族へ手紙や写真を送り、家族との関係を築いている。②病院受診に家族と一緒に来られる。お孫さんが迎えに来られ自宅で散髪されたり、お嫁さんが散髪に来訪される等、ご家族との関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に出る事で、昔の知り合いの方との出会いがある。(サンパークへの買い物・十日市・自宅への帰宅支援)また、新しい関係も出来ている。地域文化祭に作品を出品し、見学に行っている。知り合いの方との出会いがある。	家族や親戚の人の面会、友人知人の来訪や電話、年賀状、手紙での交流、馴染みの店での買い物、自宅周辺のドライブ、地域の行事への参加などを支援している。家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や法事への参加、外出、自宅外泊、外食、旅行など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されないように気の合う入居者同士関わられるように支援している。(食卓の椅子の場所や、ソファの座る位置など気を付けている)入居者同士で声を掛け合ったり、気遣い・支え合いの言葉などが聞き取られている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には、お見舞いに行ったり、併設の特養に異動されたら、声掛けを行い本人・家族との関係が、保たれて会話など出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、カンファレンス等で本人の意向を確認して希望が叶えられるよう支援している。常に本人の今に寄り添い、職員間で情報を行っている。	日々の関わりの中で利用者の言動から思いや意向を把握し、介護記録に記録してカンファレンスで話し合っている。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら前サービス提供者や家族からの情報・生活歴などを、お聞きして、これからの暮らしの把握に努めている。また、本人との会話の中から、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方や、ペースに合わせて、また心身の変化にも合わせ、その都度その方の今に合ったケアに努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしが続けられるよう、一ヵ月ごとのモニタリングで見直しを行っている。必要な関係者と、半年に一回のカンファレンス時・必要時に話し合いを行い、より良い生活の為に介護計画を作成している。	本人や家族の思いや意向を聞き、かかりつけ医の意見を参考にしてカンファレンスで検討して介護計画を作成している。毎日ケアをチェックして、1ヶ月ごとにモニタリングし、6ヶ月ごとに見直しをしている。状況の変化に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の記入や、職員間の連絡帳の記入により、その都度情報を共有して気づき又は、相談事を話すようにしている。日々の様子を個別に記録している。ケアプランの実践や、モニタリングなどに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室が空いている時は、必要に応じて、ショートステイの利用も受けている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々と、四季折々の暮らしを楽しまれている。(ソーメン流し・しめ縄作り・フルーツ演奏・大正琴・フラダンス・老人クラブ・運動会・文化祭・ひなもん・餅つき)		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と連携を密にし、要望等をお聞きしながら、信頼関係に努め家族の希望に応じている(希望される病院の受診を行っている)。日常の様子を観察し、定期的に専門医の回診を受けられ本人の状態により、病院へ受診を行っている。依頼をすれば、歯科の往診もある。	本人や家族の納得と同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、専門医への受診は、家族の協力を得て支援している。受診後は電話で家族に結果を報告し、介護記録と連絡帳に記入して職員や家族が情報を共有をしている。緊急時は協力医療機関や法人の看護師と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護職と連携を持ち、急な対応にも協力が取れて、日常の健康管理が出来る。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にサマリーを提供して、支援方法を伝えている。退院時には、病院関係者・本人・家族と連携をとり、話し合っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を定め、本人・家族・医師と話し合い、方針を共有している。	「看取りに関する指針」を入居時に説明し、重度化した場合は早い段階から医師に意見聞き、家族と話し合っ方針を共有している。職員は法人の看取りの研修に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	リスクマネジメント委員会があり、年2回の研修に参加、事故報告の検討をしている。ユニット内でも、利用者の状況を把握し、全職員で、事故防止に努めている。	事例が生じた場合は「事故・ニアミス報告書」に記録し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組む、法人のリスクマネジメント委員会やユニット会議で検討して職員間で共有している。年2回法人の救急救命、事故防止研修に参加し、内部研修で吸引、酸素吸入、発熱時やノロウィルスの対応などについて学んでいるが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的な訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内でも防災訓練に年2回参加し、通報訓練、避難訓練も実施している。地域との協力体制については、自治会の会合に参加し、現在進行中。	年3回、法人が実施する夜間想定を含む防災（消火、通報、避難）訓練に参加する他、事業所独自で2ヶ月に1回、利用者も参加して避難、誘導訓練を実施している。運営推進会議で防災について意見が出ているが、地域との協力体制づくりまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場に立ち、本人を尊重した対応・言葉かけをおこなっている。トイレの声掛けについては、周囲に分かりにくいよう、耳元で小さな声で伝えている。入浴は、一人で入りたい方は、一人で入られている。全職員でプライバシーに配慮している。②使用後のポータブルトイレの容器にタオルをかけて運んだり、使用済みのパットを中身が分からない袋に入れて持ち運ぶ等し、本人、周囲に配慮した対応を行っている。	法人研修で人格の尊重とプライバシーの確保について学び、ユニット会議で話し合っ、全職員が誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするよう取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かり易いように話しかけたり、選びやすいように声かけを工夫している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合ったペースで、一日を過ごしていただけるよう、支援している。その方の生活リズムを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時に、自由にその人らしい、おしゃれが出来る様に支援している。②化粧品を提供を行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食共に利用者・職員で作っている。野菜のしごや、野菜作り・盛り付け・その方に出る事をしていただき、味付けの話しや、今度食べたい物などを、お聞きして、提供している。芋掘りを行い、天ぷら・ふかし芋にし、四季折々の食事を手作りしている。おはぎ・柏餅・巻き寿司など。②調理方法を教えてもらうこともある。	利用者の好みや意見を聞き、法人栄養士に相談して献立をつくり、収穫した玉ねぎやサツマイモ、プランターで作った野菜などを利用して、三食とも事業所で調理している。利用者は職員と一緒に食材の買い物や下ごしらえ、配膳、下膳、台拭きなどを行っている。季節に合わせておせち料理や巻寿司、おはぎ、花見弁当、そうめん流し、外でのサンマ焼き会、クリスマス料理などを楽しみ、焼きそば、たこ焼き、ホットケーキ、干し柿などを一緒に作ったり、好みのケーキを選べるミニ喫茶、寿司や洋食の外出など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量の記録をし、甘酒、おしるこ、夏は、スイカなどお好きな物を提供している。特養の栄養士にバランスなど献立も、相談に乗ってもらうことがある		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人、毎食後にうがい薬にて、うがいをして頂き、夕食後に、義歯をポリドントにて、消毒している。ご自分で出来る方は、ご自分で歯磨きをされている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方に合ったタイミングで、誘導が出来る。排泄記録を記入し、その方に合った排泄用品を検討し、トイレでの排泄に向け、全職員が、支援している	排泄記録表を活用しパターンを把握し、タイミングを見て声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を記入し、便秘にならないよう、バナナ酢の提供や、汁物には繊維のある野菜もたくさん取り入れて、食べ物の工夫を行って、便秘の予防に取り組んでいる。天気の良い日は散歩にも出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	楽しんで入浴して頂けるよう、無理をせず、仲の良い方を誘って、ゆっくりその方に合った、入浴の支援をしている。希望により、午前中の中入浴も対応出来る。特養のリフト浴も使用している。また、足浴も行っている。柚子湯もあったり、温泉にも出掛けている。入浴の嫌いな方には、歌を歌うなど、声掛けの工夫もおこなっている	毎日14時から16時30分の間に入浴でき、一人でゆっくり入浴したり気の合う人と二人で入浴したりしている。状態に合わせて清拭やシャワー浴、足浴、法人のリフト浴の支援をしている。好みの入浴剤を使ったり、柚子湯や近隣の温泉での入浴など、入浴を楽しむことができる支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、ベットへ誘導し休息してもらっている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について、看護師から聞いて理解している。また、症状の変化の確認に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、リハビリ体操を行い、レクリエーションの中で、日付けの確認を行ったり、一日の献立を知らせている。野菜の皮むきや、野菜切り食器洗い、食器拭き、台ふきなど、参加されている。編み物や四季ごとの作品作りにも参加されている。また、カラオケを歌って楽しまれている。ボランティアの方の来苑や、外出にも、出掛けている。	母の日、七夕、敬老会、十五夜、クリスマス、しめ縄づくり、餅つき、節分、ひなまつり、おせち作り、柏餅づくり、玉ねぎやジャガイモ、サツマイモの植え付けや収穫、プランターでの野菜作り、法人の夏祭り、幼稚園児や小中学生とのふれあい、ボランティアによるフルーツやフラダンス、リハビリ体操、ラジオ体操、歌を歌う、カラオケ、ぬり絵、ちぎり絵、新聞紙のゴミ袋づくり、編み物、掃除、洗濯干しやたたみなど、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の状態に合わせて、散歩をしたり、気分転換に、買い物、食事等外出している。ご本人の自宅と一緒に付き添い仏前にお参りされている。四季の花々の見学も行い、温泉にも出掛けている。②自宅周辺への外出も行っている。	散歩、花見(桜、菖蒲、紫陽花、コスモス、菜の花)、道の駅の散策、ぶどう狩り、中学校の運動会の見学、地域の文化祭への参加、初詣、雛もんまつり、大型店舗での買い物、自宅周辺のドライブ、家族や地域の方の協力を得てホテル観賞や温泉、外食に出かけるなど、利用者の希望に合わせて戸外に出かけられるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なじみの商店へ、買い物に行かされている。 ②外出時には自分で買い物をされる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、グループホームの、携帯電話で話されている。 ②ご家族に手紙を書かれる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に壁画や季節の飾り付けをしている。各階で金魚を飼い、皆さんとお世話をしている。	玄関には利用者と一緒に飾りつけをしたクリスマスツリーや布等で作った飾り物、利用者が生けた花などを飾り、窓から見える田畑の風景からも季節を感じることができる。廊下にはソファを配置し、利用者が来訪した家族や職員とゆっくりと歓談できる。共用の空間は十分な広さがあり明るく、温度や湿度に配慮して、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事後に、気の合った入居者同士、コーヒーを飲まれている。 ②居室や廊下のソファで仲の良い方と会話を楽しまれている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前や入居時に説明を行い、ご本人が使用されていた、馴染みのタンスや使い慣れた、寝具類を使用され安心されている。ご主人様の遺影も置かれている。	箆笥、机、椅子、時計、遺影、ぬいぐるみ、人形、カレンダー、観葉植物など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器やシルバーカー、車椅子が移動されやすい空間を保持し、生活環境を、整えている。安心して移動して頂けるよう、障害物を置かないようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム白松苑

作成日：平成 26年 5月 12日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	管理者が評価の意義を説明し全職員が自己評価に関わっている。個別ケアへの理解も向上しているが、職員個人の具体的な評価を活かした取り組み計画などが十分ではない。	職員個人に外部評価結果を活かした具体的な目標を設定し、改善に取り組む。	法人内の人事考課制度を活用し、職員個人に具体的な評価を活かした取り組みなどを目標とする。	1年間
2	5	2ヶ月に1回運営推進会議で、外部評価結果などを報告し、意見をもらっているが、意見が活かされていない。	運営推進会議の内容を定例会議で話し合い、運営に活かしていく。	定例会議で運営推進会議の内容を話し合い、運営に活かせるようにする。	1年間
3	14	外部研修、法人内研修に参加し、定例会議で復命を行い情報共有を図っている。内部研修も行っているが、記録が不十分である。	内部研修の充実。	内部研修の年間計画を立て、実施内容、実施記録を充実させる。	1年間
4	35	外部研修、法人内研修に参加し、定例会議で復命を行い情報共有を図っている。すべての職員が実践力が身についているか疑問である。	内部研修で実践力が向上する研修、訓練を実施する。	内部研修で実践力が向上する研修、訓練を実施。	1年間
5	36	法人内、内部で防災訓練を実施している。運営推進会議で防災について意見も出ているが地域との協力体制づくりまでには至っていない。	地域との協力体制づくりに向けて取り組む。	法人と協議しながら地域との協力体制づくりを進めていく。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。